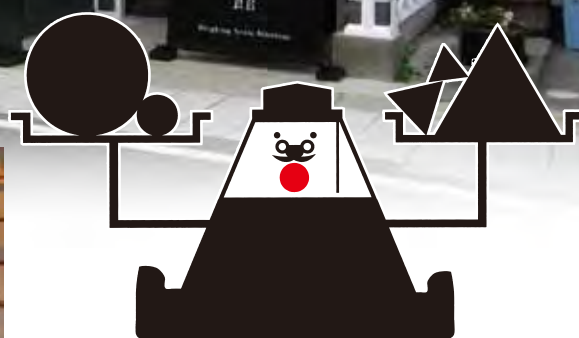


あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.168 2010.5.1

くらしの中の「はかる」を考える
チョッと気になる「はかり」の資料館

中町、蔵のまち。はかり資料館がにあいます。
4月29日、りにゅーあるおーぷん！



はかり資料館キャラクター

ハーカー博士

身長20cm／体重：はかるものによって変化する
好きなもの：インドカレー／趣味：はかること



もくじ

誌上博物館◇

松本市はかり資料館のリニューアルオープンによせて… 2 - 3
《学都松本・博物館「勸館学楽」対談》がはじまります！ …… 4
ひとの動き …… 4
ガイドコーナーはんでんぼく …… 4

松本市はかり資料館のリニューアルオープンによせて

はじめに

皆さん、「はかり」とは、単にモノを「はかる」ためだけの道具だと思いませんか？「はかる」と一口に言っても、長さ（度）、容積を量る（量）、重さを量る（衡）、時を計る…など、様々な「はかる」があります。何気なく過ごしている日常生活においても、車のスピードメーターや燃料計、時計、体温計、電気・水道メーター、ものさし…など、たくさんの「はかり」があり、生活が成り立っています。私たちが生まれた時には、たいてい身長・体重を測定します。ですから、ほとんどの人が、生後すぐに「はかり」にお世話になっていることになります。

こうした普段何気なく使っている身近な「はかり」を、あらためて見つめなおす機会はほとんどありません。松本市はかり資料館は、「はかる」ことの重要性や、道具としての「はかり」の魅力について、皆さんにご紹介するための資料館です。今回、改修事業を実施して展示を一新しましたので、その概要をご紹介します。

1 はかり資料館開館の経緯

はかり資料館の建物および資料は、明治35年に創業した竹内度量衡店が母体となっています。創業者の田中敬一郎氏は現在の伊那市に生まれ、青雲の志に燃えて東京馬喰町の竹内金庫店に奉公し、年季が明けて暖簾分けを受け、松本において竹内商店（竹内度量衡店）を創業しました。その後、度量衡の販売免許を受け、度量衡専門店として、県内の中南信地方の需要を一手に引き受けていました。大正時代には、杵製造と秤修理の免許も受け、秤の製造・修理・販売などの度量衡全般にわたって、当該地域の中心的な役割を果たしていました。昭和61年まで営業を行った後、平成元年に松本市により松本市はかり資料館として開館しました。今回、開館から20年が経過し、改修事業を実施して装いを新たにしました。



うわでらさお
上皿秤はかり

2 展示の構成

(1) ゾーン1「プロローグ ～テミスの像～」

展示室入口正面のケースに、象徴的に展示しているのが「テミスの像」です。女神テミスは、ギリシャ神話の中で、正義と公正のシンボルとして、天秤を持って登場します。ヨーロッパの裁判所では、テミスの像をシンボルとして展示しているのが多く見られます。

日本では弁護士がつけるバッジに、常にこの世を照らす太陽に向いている向日葵とともに、公平と平等の象徴として天秤がデザインされています。天秤は、物をはかる道具だけでなく、人の心をはかる「神様の道具」の象徴としても考えられてきました。



弁護士バッジ

テミスの像

(2) ゾーン2「はかり」のこと「はかる」こと

このゾーンでは、人間とはかりの関係、はかりの歴史、計量器の大切さをご紹介します。

体験コーナー「感覚ではかる」では、度（長さ）・量（容量）、衡（重さ）の体験アイテムを使って、自分の感覚とはかりの計量を比較し、計量器の必要性を体感していただきます。

体験内容は、1mってどのくらい？ふくろは何kgかな？350ccってどのくらい？というものです。感覚を研ぎすまして、ピッタリ当たったらお見事！ぜひ挑戦してみてください。

そのほか、日本の計量史の解説、はかり資料館の前身の竹内度量衡店を、当時の文書史料を展示しながらご紹介するコーナーがあります。

(3) ゾーン3「くらしとはかり」

ここでは、収蔵しているはかり資料を形態・用途ごとに分類して展示しています。

度 ～長さをはかる～

建物を建設したり、地図を製作するためには、正確な長さをはかる必要があります。現在、世界

的に広く使われている長さの単位は「メートル」ですが、最初の「ものさし」は人間の体を使ったものでした。手の幅、両手を広げた幅、歩幅などを一つの単位として、ものさしとしていました。

このコーナーの展示品では、壁掛用の簡易身長計、乳児用の身長計、畳製作で使用する直尺、鋳型製造時の伸縮率を考慮した鋳物尺、洋裁の型紙の製作に使うカーブ尺、立ち木の直径を測定する際に使う「はさみ尺」…など、普段はなかなか見ることがないものをご覧くださいます。



象の形をしている乳児用体重計

量 ～容積をはかる～

古代から、穀物や液体の量をはかるのに使われてきた道具が枡です。昔の商店では、枡を使って酒や醤油を必要な量だけ売る「はかり売り」が一般的でした。このため、容積をはかる枡は日常生活において、特に欠かせないものだったのです。展示資料には、竹内度量衡店製作の焼印が入った枡、穀物用枡と、枡に盛った米などの穀類を縁に当てて平らにする棒状の道具である斗概、ガラス・金属製の枡などがあります。

衡 ～重さをはかる～

重さをはかる計量機器で、最初に発明されたのが天秤です。いつ頃発明されたのかは、はっきりしませんが、紀元前までさかのぼる天秤が、エジプトで発見されています。また、エジプトに残る壁画の中に、天秤を使って作業をしている様子が描かれているものも見られます。こうした天秤型のはかりは、やがて1669年の「ロバール機構」の発明により、上皿天秤が誕生します。その後、この技術が応用され、はかりの技術は画期的に進歩してきました。展示品は、日本の江戸時代の両替商が金銀をはかる事に使用した両替天秤（針口天秤）、行商人たちが使っていた鞘入り棒ばかり、明治時代の郵便局で使っていた書状掛秤、中国や

チベットで使われていた棒ばかりなどをご紹介します。

時 ～時間をはかる～

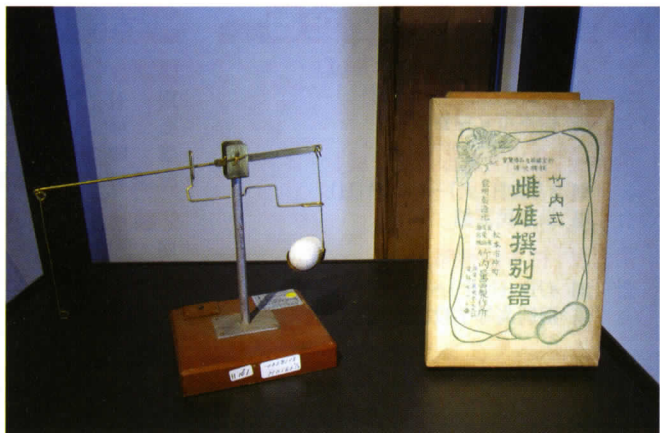
意外と忘れがちですが、時計は時間をはかる道具です。今から5,000～6,000年前には、すでに日時計が使われていたようです。人類が農耕を始めると、種まきや収穫時期を知る必要があるため、1年間の暦や時間をはかる時計が必要となりました。

(4) ゾーン4 「松本ゆかりのはかり」

ここでは、松本にゆかりの深い計量器をご紹介します。松本は、近代以降に蚕糸業が盛んとなり、大いに栄えました。養蚕・蚕糸業では、その製造過程で、特殊なばかりを使用しました。

はかり資料館の前身の竹内度量衡店は、竹内式雌雄選別器と呼ばれる繭の雌雄を判別するばかりを製作していました。繭の雌雄の選別は、翌年に生産する繭の種を残す時に、雌雄が偏らないようにするために行われる重要な作業でした。この計量器は、全国特産品博覧会にも出品された優れ物で、これまで特殊技能を持った職人しかできなかった繭の選別が、雌の繭は雄の繭より10mgほど重いという特性を利用して、誰でも選別できるようになりました。

このほか、松本城下の発掘調査から出土した「天下一」刻印のある江戸時代初期の分銅も展示しています。



竹内式雌雄選別器

おわりに

「はかること」「はかり」は、私たちの生活に切っても切れないものです。それぞれの「はかり」には、長い歴史と様々な工夫が集約されています。当館をご見学いただき、あらためて「はかること」「はかりのこと」を見つめなおしてみると、日常生活に意外な発見があるかもしれません。

(時計博物館・はかり資料館 学芸員 竹内靖長)

侃侃諤諤！ かんかんがくがく？ いえいえ、「勸館学楽」です！

《学都松本・博物館「勸館学楽」対談》がはじまります！

松本市の博物館は明治39年（1906）の開館以来100余年にわたり、市民の学びの場として活動し「学都松本」の礎を築いてきました。地方都市で100年以上の歴史がある博物館は稀で、文字どおり「市民に育てられ、市民と歩み、市民と創る」博物館そのものです。平成12年には松本まると博物館構想を策定し、市民学芸員養成講座開講などの「ひとづくり」と地域資源に光をあて地域と連携した「まちづくり」を実践し、この構想の具現化を図っています。

今回始める「勸館学楽（かんかんがくがく）」対談は、その一環として、地域文化や学びについて市民と学芸員が対談し、それをもとに参加者が自由に発言し、知の交流と発信を図ります。職員が聴講者に一方的に情報発信する講演会から、参加者と職員との双方向の「勸館学楽」対談へ。博物館は少しずつ、変わっています

皆さまのご参加と、自由な発言をお待ちしています。

ひとの動き

4月1日付で、次のように職員の転入・転出等がありました。（ ）内は所属。

転入 よろしくお願ひします。

[課長補佐] 藤波由紀夫(旧制高等学校記念館)
[係長] 田堂 誠(本館)
[主査] 門野 博之(馬場家住宅)
[主事] 遠藤 正教(本館)
[館長(嘱託)] 田中健太郎(はかり資料館)
[館長(嘱託)] 遠山 順次(時計博物館)
[館長(嘱託)] 丸山 廣登(民芸館)

課内異動 職場がかわりました。

[主事] 高山 直樹(本館→旧制高等学校記念館)
[嘱託] 市川千鶴子(考古博物館→本館)
[嘱託] 百瀬 英昭(本館→山と自然博物館)

退職・転出 お世話になりました。

[課長補佐] 熊谷 康治(旧制高等学校記念館→退職)
[課長補佐] 塩原いさを(本館→保険課)
[主査] 木下 守
(旧制高等学校記念館→文化財課文化財担当係長)
[主事] 望月 優(馬場家住宅→商工課)
[館長(嘱託)] 小原 剛(はかり資料館→退職)
[館長(嘱託)] 望月 正勝(民芸館→退職)
[館長(嘱託)] 山口富士郎(時計博物館→退職)
[嘱託] 増田 里菜(本館→総務課)
[嘱託] 東條 理恵(旧開智学校→退職)
[嘱託] 丸山 順子(山と自然博物館→退職)

ガイドコーナー はてんぼく

工芸の五月連携企画

企画展「松本之美 みすず細工」

会期 5月1日(土)～31日(月)
会場 松本市立博物館

企画展「生活を着る 刺子展」

会期 4月20日(火)～6月6日(日)
会場 松本民芸館

企画展「柚木沙弥郎展」

会期 4月24日(土)～5月30日(日)
会場 旧制高等学校記念館

時計博物館から ☎0263-36-0969

時の記念日制定90周年記念

企画展「日本の時」

会期 5月29日(土)～7月4日(日)
場所 時計博物館3階 企画展示室
観覧料 無料(常設展は、別途観覧料が必要)
内容 大正9年(1920)に6月10日が「時の記念日」に制定され、今年で90周年を迎えるのにあたり、「日本の時」の歴史をふりかえてみます。

関連事業「古時計説明会」

期日 6月5日(土)・6日(日)
両日とも2回開催(各回約20分ほど)
①午前11時15分～ ②午後2時～

松本民芸館から ☎0263-33-1569

講演会「私と民芸との出会い」

期日 5月16日(日)午後1時～3時
会場 松本民芸館
講師 小市璋子氏(裂織りの作り手)
聴講料 無料(観覧料が必要)

体験講座「布ぞうりづくり講習会」

期日 6月13日(日)午前10時～午後3時
参加料 1,800円(材料費・観覧料・指導料含)
講師 秋山啓子氏(NHK松本文化センター講師)
定員 25名 要申込み(定員になり次第締切)

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

空穂茶会

期日 5月16日(日)午前10時～午後3時
(受付は午後2時30分まで)
場所 空穂生家
茶券 1,500円(濃茶、薄茶の二席)

短歌講座

期日 ①6月6日(日) 講師/篠 弘氏
②7月11日(日) 講師/馬場あき子氏
③9月12日(日) 講師/島田修三氏
④10月10日(日) 講師/来嶋靖生氏
毎回午後1時40分～3時50分
場所 空穂生家
受講料 各1,500円

考古博物館から ☎0263-86-4710

ミニパネル展「中世の遺跡を掘る」

会期 5月1日(土)～6月30日(水)
場所 松本市立考古博物館常設展ロビー
観覧料 200円(常設展含む)
内容 昨年注目された殿村遺跡(四賀)の石垣をはじめ、市内で発掘された平安時代から室町時代(10世紀から15世紀)までの遺跡を、写真パネルで紹介しつゝ。

あとがき

昨年の11月からの改修工事が終わり、はかり資料館がリニューアルオープンしました。ぜひ、足を運んでください。

さて、奈川の調査からひとこと。ジャガイモの芽を出さずに保存する方法! 風を呼んでソバの殻を吹き飛ばす方法? 聞き取り調査では、思わずうなってしまう先人の智恵に出会います。調査は足元に埋まっている宝物を、ひとつひとつ掘り出す博物館の大切な仕事です。(K.U)

あなたと博物館 No.168

発行年月日/平成22年5月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号
Tel.0263-32-0133
URL: http://www.matsu-haku.com
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp